

---

○議長（斉藤 重君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前10時55分）

---

◎議案第34号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（斉藤 重君） 日程第2、議案第34号 平成25年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計予算についての件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（齋藤文彦君） 議案第34号は、平成25年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計予算についてであります。

詳細は担当課長をして説明します。

（企画観光課長 山本 公君 提案理由説明）

○議長（斉藤 重君） 以上で提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑を許します。

○8番（一瀬寿一君） 26ページでちょっとお伺いします。

全体的にお客さんの減りが、どんどん、どんどん減ってきているということで、修正していかなければならないかと思うのですが、いずれにしろ、現在のこのような状況、これはあくまでも予算ですからあれですけど、その中で、売店売上も昨年あたりはアドバイザーを入れてだいぶ売上を増やすんだというようなことで、この売店売上も今回はちょっとだいぶ下がって、マイナスになっているようですが、この辺をちょっとどういうふうにしたのかご説明を願いたい。

それと、光熱水費ですね。3700万円、昨年よりも・・・、これは電気料が上がったのか、どうなのか、重油代が上がったのか、わかりませんが、この3700万円の水道光熱費、これは以前から私は改良しなければ、この経費はどんどん、どんどん膨れ上がるよと、ここのところのやり方を考えなければならないというのは何回も議会でも、また、監査の時でもご指摘をしているわけですけども、この辺をどのようにするのか。

それと、現在この重油、A重油が800万円からかかって・・・、この辺も何であれだけの施設で重油をこれだけ使わなければならないのか、構造上おかしいんじゃないかなと私は思うんですけど、まず、先にこの3点からちょっと教えてください。

○企画観光課長（山本 公君） まず、売店の関係、アドバイザーさんを入れた売店の関係でこ

ざいますが、アドバイザーさんを入れまして、売店の検討、あるいは料理のメニューの検討等々もさせていただいたところがございます。売店の売上は確かに下がっておりますけれども、客単価自体が、もう売店の単価自体も下がっている。あるいは小さなグループですね。2名程度の小グループが多くなってきているというようなこと。

職員の方も声かけなんかをして、できるだけ買っていただくような形でお願いはしているところがございますが、なかなか買っていただけない状況がございます。

売店の方を見ていただきますと、今までにない商品の展示はもちろんですが、地場の食材を使ったもの、ジャムですとか、そういうものがあったり、農産品があたりとか、そういうものも置いた中で、いろいろお客様に購入をしていただきたいということで考えているところがございます。

それから、バザーですとか、朝市ですとか、そういったものの開催ですとか、過日富士山展ということで、写真の展示会みたいなものをさせていただきましたけれども、それらによりまして、町内のお客様が来ていただいて、その中で喫茶の利用ですとか、あるいは売店の利用をしていただいてというような事例も見受けられるところがございます。

電気料等光熱費の関係が多いわけですが、電気料の関係につきましては、電気料の値上げというのが当然あるわけございまして、それは、町の施設等々を含めまして震災以降、値段が上がっているというような状況でございます。ただ、そうは申しても、削減というんですか、むだな・・・、水もそうですけれども、節水に努めたり、電気の使用についても考えてやっているところがございます。

それから、あと、燃料の関係ですが、重油、ガス等の関係につきましては、見積りを町内の業者さんから徴しまして、その中で対応しているところがございます。

また、食材等につきましても同じように必要な見積りを取ったりとか、そういう中で対応をさせていただいているところがございます。

温泉の貯蔵タンクの関係で、一時お湯を沸かして入れるというようなこと、温泉が熱いものですから水を足して、その分またお湯を足すような状況が過去はあったようではありますが、できるだけそういうふうにならないように調整をさせていただいているところがございます。

それでよろしいですか。足りないところがあれば、またご説明します。

○8番（一瀬寿一君） このアドバイザーの方も一時ちょっと来た直後は良かったようではありますが、それからだんだん、だんだん売店売上も下がって、ほかのところもいろいろアドバイスしてもらっているようではありますが、それなりにアドバイザーの役目が適正にやられていたのか、

いないのか、ちょっとわかりませんが、これは今年3月までで終わりなのかな、これは継続はしないわけだね。ということ、それを返事をもらいたい。

それと、2つ目の水道光熱費、これが年々、年々上がっていくわけですが、電気料だけのことでないと思うんですね。

この内容の中身を見ると、大変むだなところが多い。そして、むだなところが多いということ、もう一つは、あれだけの温泉をまつぎ荘で使ってくれて、年間に600万円から700万円の湯量を使っているのは、これは温泉の方は大変ありがたいわけですが、しかし、その温泉で十二分に間に合うのにも関わらず、重油を800万円も、900万円近く使うということはおかしいのと、そこところが構造上おかしいと、要するに、説明すると、一番下に温泉を入れて、その上にいま言った重油で沸かしたお湯を入れて、そのお湯の上へと水を入れている。そして、それを混合させて温泉の中へ入れている。何を考えているのか。温泉の効能なんかまるっきりないじゃないか。私は、こういう言葉で何回も言っています。

ですから、思い切って、そこところを改装しなければ、むだなことですよ。要するに、水もむだにしているわけですよ。だから、そこところを今後考えていかれるのか、いかれないのか。

それと、私は、電気料が上がると、当然これはもう皆さんご承知のように電気料が上がってくる。その電気料も東電に交渉をして、多額な電気料を使うところは、交渉次第で何パーセントかは応じてくれるということも私は聞いているけれど、それもちょうと監査の時に私が指摘をしたら、聞いてみますよと言っただけで、実行しているか、していないか、聞いてくれているか、聞いてくれないか、その辺をもう一度教えてください。

○企画観光課長（山本 公君） 売店の関係、アドバイザーの関係につきましては、この中にはもう入っておりません。24年度振興公社の委託費の中で、アドバイザーの委託をしておりましてけれども、予算上ではみておりませんので、25年度はございません。

燃料の関係と水道の関係につきましては、去年の実績でいきますと、水道は3万5828立方メートル、12カ月間です。今年度が10カ月間で2万9111立方メートルということでございまして、1日当たりの使用量については減っております。24年度は、それらを参考に作ってございます。

重油の関係、同じでございしますが、温泉に水を入れて、あと足りない部分を補給する、沸かして補給するみたいなお話でしたけれども、過去はそういう運営をやっていたこともあるようですけれども、そういう形にならないようにできることでいま対応をしております。

その部分だけ重油を使っているわけではなくて、空調関係にも使っておりますし、上がり湯、そういう部分にも使っておりますので、すべてを温泉に入れているということではありませんし、入れていることについては、調整をして、そういうふうにならないような形の取り組みをしているところでございます

それから、電気料の関係、電気料が改定になる時に東電さんから、このくらい上がるよというようなことで、町全体の施設について連絡をいただいたわけですが、その時点でまつぎ荘は 15.何パーセントという数字ではなかったかなと思いますけれども、一瀬議員は監査委員ということで、いろいろ交渉を試みたらどうかというようなお話もいただいております。

まだちょっと連絡はしていないんですけれども、それは連絡をさせていただくということで考えております。

○8番（一瀬寿一君） それと、この 27 ページ、修繕費として畳替えですね。こちらが 350 万円ほど載っておりますが、これは何年に一度と決められているのか、決められていないのか。畳替えをしなければならないのかな。この辺も、私が言っているのは、今年度最後の、振興公社が指定管理者になって、1年ですよね。

だから、そういうところで、今年度最後にやっぱり相当の経費節減をしたり、むだなところを省いていかないと、果たして、次に指定管理者、振興公社がやれるかどうかという、その存続のところまでできていると思います。

だから、そういうことをみて、むだな経費を省くという中で、この畳替えが果たして、適切なのか、適切でないのか。

それと、負担金の所で、国民宿舎協会・観光協会ほかということで、これは 65 万円ありますけれども、例えば、観光協会では各宿泊施設から料金改正をして、今までは畳何畳に対していくらというようなことだったけれども、今度は若干大きい、少ないは関係なく、年度会費を大体大きいところで 3 万円というようなことになっているということも聞いていますが、この辺がちょっと具体的にご説明願いたい。

最後に、28 ページの企業債、これも現在のところ約 6 億 8900 万円近くまだ残っていますけれども、この辺の返済のことも、やはりこの前一般会計から投入して、それなりに町の方の財源から出して、金利はいただいておりますけれども、果たして、これでずっとこのままいくのか、いけないのか、この辺も教えていただきたいと思います。

○企画観光課長（山本 公君） 公社の中の委託費の畳替えというのがございます。広間の方の畳替えをする予定、大広間と言うんですか、広間の方の畳替えをする予定でおります。

ただ、その状況を当然見ながらやらなければならない。何年に1回替えなさいということではないかと・・・、その年数というのはちょっと把握をしていませんので、ちょっと申し上げることができないんですけども、当然使えるものであれば、それは替えないでいかなければならないでしょうから、それは当然状況を見て対応をさせていただくということになるかと思えます。

当然、むだは切って、収益、収入としてはお客さんに来ていただいて増やしていかなければならないというような努力はしていかなければならないと思います。

負担金の関係、観光協会の負担金のお話がありましたけれども、ちょっとその基準が変わったかどうかというのは、ちょっといま私の方で承知していないんですけども、24年度の観光協会の総会の時に、その負担金の額について見直していきたいというようなお話があったというような認識はしております。観光協会の総会の時に。

その後、いくらになったとか、改定がされたかということについては、ちょっと情報を掴んでいないものですから、ちょっとお答えはできないわけですけども。

なにか、やはり差があるものですから、「変えたいですね」という話は、総会ではあったんですけども、それは総会で結論に至る状況ではなかったというふうに私は認識しております。役員会等で協議をした中で、今後のその金額が変わってくるというふうに認識をしております。

それから、企業債の関係でございます。以前は三信さんで2つ2.0と1.9で借りていたわけですけども、町の方の一般会計の方から出させていただいて、0.5でやっているわけですけども、そのまま2本で三信さんのものを使っている時よりも1851万6000円ほど軽減が・・・、元金と利息を合せて、軽減されているところでございます。

○8番（一瀬寿一君） 結局、この企業債も当然国の方の関係で、若干金利が上がってくる可能性が見え見えというか、もう上げざるを得ないような状況になっているよということもちょっと聞いていますけれども、ここら辺のことの今後の対応をどういうふうにするかということと、それと、もう一つ、今のシステムがやっぱり親が子に、子がまた孫にというような3段階になっていますね。

ですから、これはまつぎき荘の方から直接の依頼なのか、振興公社からの依頼なのか、当局の方はその辺をどんなふうに感じているのか。

私から見ると、どうもこれはなんか二段構えのような感じで、その辺がちょっと一番あいまいなようなところ。公社に言うと、公社は「当局に言ってください」、当局に言えば、「公社が管理者だ」と、なんかこの辺で行ったり来たりのような話になって、この辺もやっぱりはっきりし

ておかないとまずいんじゃないかな。この辺の考えも町長、聞かせてください。

○企画観光課長（山本 公君） 町から借入をさせていただいた分については、国債等の率を参考に5年ごとに見直しをするというようなことになっておりますので、そういう部分というのは、ある時期には見直しが当然出てくるということは認識しているところでございます。

それから、町と公社との関係がというお話がありましたけれど、これは町長の方でいいですか。

○町長（齋藤文彦君） 町と公社の関係ですけれども、本当になんと言いますか、いろいろ見えないような壁があるような感じがして、アドバイザーさんにもそのところをいろいろ言われているわけですけれども、今度の、私の考えでは、この辺をはっきりさせたいというようなことを考えているところでございます。

○9番（稲葉昭宏君） いま一瀬議員がいろいろ言いましたけれど、このまつぎき荘の経営については、これは予算審議ですから、出てきた数字がどうかということが議論の焦点になるべきことなんだと思いますけれど、ちょっとこれは何回も今までいろいろな議論がされてきたわけですけれども、どうも私は・・・、町長は振興公社の理事長で、そして、そこに理事会があり、評議委員会があるわけですけれども、一応運営上の問題のことについては、理事会の中でいろいろ議論が出ると思うんだよね。

だから、例えば、いま我われがこうやって議論しているような問題を、これはもう当然理事会の中でもそういう話が出てくるでしょうけれども、どうも、公社が現場ですよ。現場にいまこうやって数字の上では大変厳しい数字が出てきているけれども、公社の方のそういう切実感というものが町長の方に感じられますか。

結局、公社はいろいろ受託事業であちこちやっているわけで、その中には、要するに、収益事業ではない財団法人ですから、収益事業をやってはいけないよという、そういった内容の受託のわけですけれども、まつぎき荘の場合は、そうじゃない。収益事業をやってどんどんあれしてもらわなきゃ困る。利益が出れば一般会計の方へ入れましょうということなんだと思いますけれども、そういう点をいろいろ考えた時に、これだけ厳しい内容の時に、公社自体はそういう危機感というものを持っているんだろうか。

例えば、これはいつも申し上げますけれども、結局、売上が落ちれば、委託はどんどん補正で減額補正する、上がれば増額補正する、数字がそこに、振興公社というのは、一杯いっぱい数字がそこに上がってくるわけですよ。

ですから、彼らにはマイナス意識というものが、数字の中で受け入れる体質というのがある

のかなという気がするんだけど、そこら辺は、町長、どう思いますか。

○町長（齋藤文彦君） 稲葉議員にはいつもそのところを言われているわけですがけれども、私も振興公社の前を通ると、いつもあそこへ行って、本当に親方日の丸というような気がしているわけです。私は、これを改革しなければならないと思っています。

それで、やっぱりまつぎ荘は企業債や一般会計から6000万円の現金が必要になるわけですがけれども、それに合わせて、どうしても年間3000万円が不足すると、これを稼ぐためにいろいろいま進めています。

それで、いろいろアドバイザーさんにいろいろ言われたわけですがけれども、今年で切れるわけですがけれども、その時に、アドバイザーさんのこの報告書があるわけですがけれども、いろいろきめ細かにやってくれました。

支配人、副支配人、そして、職員、フロント、応接、売店、調理場、これをこれまでの対応、残された課題、今後の対応ということで徹底的に話し合ってもらいました。

そして、公社の関与、町の関与ということでいろいろ結論が出るわけですがけれども、その結論として、「そもそも組織として根本的な問題を抱えており、改善に向け、スムーズに動かすことはできない」と言われているわけで、これがわかっているものですから、私は、今度・・・。だけど、こういう結果が出たわけですがけれども、内部で話してみると、非常にやる気の職員が出てきて、それなりの効果が出てきたと私も感じています。中に行くと、何と申しますか、いろいろ活気が出てきました。

それで、この前、副町長と私と、そして、振興公社の鈴木君と、そして、まつぎ荘の支配人の山地君といろいろ話し合って、これからどういうふうにやっていくか話をしているわけですがけれども、そのような雰囲気が出てきます。

それで、私としては、平成25年度は、いま企画観光課に専任の施設管理係ですか、これはほとんど専属のような形で置いて、公社との連携を強化するとともに、公社の組織改善を図りたいと思っています。

これは、いま4人いますけれども、本当に公社の方は事務局長と事務員の2人を置いて、あとの2人はまつぎ荘で働いてもらって、いろいろぐるぐる回ってやってもらうような形を整えています。それで、このような形をぜひやって、活性化に結び付けたいなと思っています。

ちょっと質問に答えているかどうかわかりませんが、このような気持でございます。

○9番（稲葉昭宏君） 大変町長も苦労しているなという・・・、そして、アドバイス、指摘がありましたように、やっぱり公社に委託をするという、この一つの仕組みが、どうも限界にきている

なというふうに感じますよね。

ですから、これはもう、いろいろいま町長が言うように、専属で職員を張り付けるということなんですけれども、一応いろいろなことをやってみるという、経営の中でやってみるということは必要なことでしょうから、いろいろやってみて、そして、公社の職員もやる気になっているなということであれば、私は、勝負だとしたら、さっき一瀬さんが言った、最終的な委託の最後の年ですから、勝負どころだなというふうに感じるわけなんですけれども。

全然これは違ったあれですけど、まずはいい材料というのは、まつぎき荘のいい材料というのは、私個人は、いつも思っていることは、リピーターがとにかく半分位いるよと、こういうようなことは、一つのまつぎき荘の財産だと思うんですよね。最近のこの推移はどうなんでしょう。課長、お願いします。

○企画観光課長（山本 公君） 2月までのリピーター率なんですが、46.3パーセントございました。その前年、23年度については、42.7ですので、いろんな友の会の会員ですとか、メールマガジン、メールの方の会員さんですとか、そういった方々にダイレクトメールを出したりとか、メールでご案内をしたりする中で、そういった方々が利用していただいているのではないかなということで、リピーターの数が増えてきていただいて、その方々が口伝えでほかの方に紹介をしていただければ、まつぎき荘の認識が高まって、利用が増えてくるのではないかなと思いますので、そういうことを進めていきたいと思います。

○9番（稲葉昭宏君） そして、料金設定を下げた方がいいという話は結構出てると思うんですよね。評議委員会の中でもそんな話が出たりしている。これはもうちょっと柔軟性をもたせてやった方がどうだろうと思いますけれども、これは大家の方の判断ですから、これは、いま、1万1000円とか、1万2000円とかと幅が決まって、料金設定してあります。もうちょっと安く下げてやってみたらどうだろう。そこらはどうなんでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） その点はいろいろ考えて、柔軟に対応していきたいなと思っています。

○6番（土屋清武君） 町長、経営者として現在の伊豆まつぎき荘の売り物というんですか、昔は接客サービスを売り物として、経営に重心を置いていたわけなんですけれども、いまどのようなところに重点をおいて運営しているのか。

それで、もう1点、稲葉議員からもありましたけれども、職員の関係について専任でこっちへと担当というんですか、職員を置くというようなことなんですけれども、現場へということではなしに、こっちの事務所に置くということですか。

もう一つは、本年度のこの予算と前年度今まで頑張ってきてくれたわけなんですけれども、実質



的には赤字ということになるようではすけれども、これに対して、じゃあ、25年度はどういうところをかいて、どういうふうにしていこうかと、そして、プラスにしていこうかというような考え方ですね。そういうところをちょっと教えていただきたいと思います。

そして、11ページと次の予定貸借対照表の25年度の関係ですけれども、これの未収金が確か両方まるっきり同じになっているわけですね。2400万、3月31日に。

これを先だつての補正で聞いたところ、質問で資金計画なんかで未収金の関係を聞いたわけですけれども、その時には、確か、カード関係が未収金で計上してあるということですが、それが現金化するには、何か1週間くらいでできるというように聞いているわけですが、3月31日に2400万円カードがあるなんておかしいんじゃないですか。その前にもう1週間でも2週間でも前に現金化して処理していくべきではないかと思うんですが、その辺はどうお考えですか。

○町長（齋藤文彦君） 最初の3つをお答えします。

今年は振興公社の委託が5年目ですので、ぜひこの宿泊者数2万3500人、利用率47パーセント、これをぜひ目的を達成するために4つの目標を掲げているところでございます。

一つは、体験型企画商品の開発です。これはいま岩地で修学旅行をやっているわけですが、アウトドアサービスの村井さんというのが、岩地でできなくて、まつぎ荘でやったわけですが、これが非常に好評でしたので、この人とうまく協力し合いながら、体験型、その開発ができないかと・・・。

それで、子ども用と一緒に、私は全町まるごとふる里自然体験学校と言っていますが、大人の修学旅行みたいな形ができないかと、それで、いろいろな体験メニューができるようなことをいま一生懸命やっているところでございます。

そして、もう一つは、既存顧客の営業強化ということで、先ほど課長が言いましたけれど、友の会、サポーターズクラブの強化を図っていきたいと思っています。

もう一つは、ネット予約がほとんど、なんと申しますか、多数を占めるようになったわけですが、ぜひ40パーセント台になるように頑張っていると。それで、いま好調な静岡県自動車学校関係の営業強化ということでやっていきたいと思っています。

一回これはチャレンジする必要があると思うんですが、結婚披露宴のちょっと小型みたいなものを丸高さんの時にやったわけですが、非常に評判が良かったわけですね。あまり大勢の結婚式でない場合は、まつぎ荘でもできるのではないかなということで、これも営業していきたいなと思っています。

それで、施設管理系の件ですけれども、まつぎき荘の方に行ってもらいたいような形になると思います。デスクはこっちにあるわけですけれども、向こうに飛び出て行ってやってもらいたいような形になると思います。

それで、向こうで朝打ち合わせをしてもらうような形になればいいのかなと、私も今度は本格的に・・・、こんなことを言うとあれでしょうけれども、最初まつぎき荘に出勤してこっちに来るような形にぜひ私はしていきたいなと思っているところです。

○企画観光課長（山本 公君） 過去に一瀬議員の方からもお話がありましたけれども、接客の関係でかなり有名と言うんですか、ありまして、昭和 60 年から 63 年くらいまで利用率が日本一というようなこともございました。

先ほど町長の方からもありましたけれども、職員の意識改革というんですかね、危機感を持ってあたっていただかなければならない。稲葉議員の方からのお話もありましたけれども、そういったものを持っていただいてやっていくことが必要かなと思っております。施設管理係ということで、これまで松本係長が兼務していたわけですけれども、施設管理係ということの中で、専従というんですかね。そちらにてこ入れをしてやっていくということで町長は考えているところがございます。

未収金の関係につきましては、200 万円が 2400 万円ということで、補正の関係もございましたけれども、これまでの決算状況なんかを見ていきますと、最終的に 2400 万円くらいの数値を提示しているところでもございまして、確かに、現金化を早めにするような形でしていくことで考えておりますけれども、そういうことでお願いができればと思います。

一応決算を見ながら、今まで 200 万円であったものをそういうふうにやらせていただいているところがございます。

○7 番（関 唯彦君） これをいろいろ見させてもらうと、町長はいろいろ言われているんですけど、予算にはあまり現れていないのかなと・・・。

ただ、いろんなことを町長がやりたいという中で、賃金の所で、パートの部分でしょうか、かなり多くなっている。これがその辺に入ってくるのかなと思うんですけど、予想では結構大手の旅行会社とツアーの企画を組んだり、松崎に来てもらうために特別に 1 日とか、1 泊とか、いろんなもので組んで、かなり呼び込んでいる地域があるんですよね。そういう形を進めるためには、ある程度的人员でそういう営業をある程度力を入れていかなければいけないと思うんです。それには人を、臨時なり・・・、臨時というよりもかなり人を、ある程度入れる必要も出てくるんだと思うんですけど、そういう形では反映してきていないような感じがするんですね。

ですから、本当に営業とかいろいろ力を入れようというのは、言葉では聞こえてくるんですけど、予算面から見ると、そういうものが見えてこないというのが・・・、ちょっと私は感じるんですけど、本当に力を入れる意思があるのかという、その辺がちょっとこの予算から見ると疑われますので、もうちょっとその辺を聞かせていただきたいと思います。

○企画観光課長（山本 公君） その人件費等の関係でいきますと、前年より減というようなことございまして、営業の部分に人手をもうちょっとかける必要があるのではないかというお話がありました。臨時さんの部分については、正規職員の部分の補充をするような形の中でやっているところございまして、ただ、丸々1日ではなくて、短時間でパートさんみたいなものを回しているというのが現状でございます。

その営業の関係につきましては、町長が申し上げましたが、体験型商品についても25年度につきましては、重点を入れてやっていきたいんだというようなお話をさせていただきました。

うちの方では、グリーンツーリズム推進係が振興公社の方にございます。関がやっておりますけれど、そちらの方とも連携をした中で、体験型メニューを取扱っている旅行業者さんの方へ売り込みにいくということになっております。今月中にも行って来るということございまして、そういうものを利用していただいて、例えば、去年ですか、日大三島の中学校の生徒さんがこちらに来ていただきました。

本来岩地の民宿で受け入れをできれば良かったんですけども、時期の関係がありまして、なかなかできないということで、宿泊については伊豆まつぎ荘で受けたんですけども、体験については岩地でやったというようなことがございます。

ですから、そういった子どもたちの体験をしていただく受入施設みたいな形での活用の方法も考えられますし、いろんな・・・、一般会計の中でもあったでしょうかね。ホテルのツアーみたいなものやったり、そういう企画ものを作って売り込みを・・・、今もホームページ等では売り込みなんかをしておりますけれども、業者さんの方へも積極的に売り込みをしていくということ考えております。

まつぎ荘だけではなくて、振興公社のグリーンツーリズム係とも連携した中で対応ということで、いま考えております。

○7番（関 唯彦君） 話はわかります。いろんなグリーンツーリズム、都市との交流みたいなものも含めてやろうとしているのはわかるんですけど、やはり本格的に営業するのであれば、やはり人員というのはかなり必要だと思う。思い切った処置をして、開発していくということが必要だと思います。

よそを見ると、やはり大手の旅行会社とツアーを組むために張り付けているんじゃないですけども、かなり人件費をさいているところが結構あるんですね。そういうところが手薄になっているんじゃないかな。ただ企画はしてもなかなか来てもらえないというのは、やはりそのタイアップの仕方、相手も応じてくれなければいけないんですけども、かなりそういうところの力の入れ方というのがやはり必要なんじゃないかと私は思います。

ですから、その辺も力を入れていただきたいと思いますけれども、もう一度その辺をお願いします。

○町長（齋藤文彦君） 関さんの言われることはもっともで、銀水さんなんかを見ていると、本当にそうやっていますので、なかなかお金をかけることはできないわけですけども、それなりにやっていきたいと・・・。

そして、6市6町で伊豆グランドデザインをいま描いているわけですけども、6市6町で宣伝しながら、一緒にやろうというような話も出てきていますし、道の駅も使って、防災とか、観光と一緒に使いましょうというような話が出ています。そういうことも絡めてやっていけば、それなりのことができると思います。

関さんが言うことは本当にもっともだと思いますので、そのようなことも頭に入れてやっていきたいと思っています。

○1番（藤井 要君） 続けざまにやらないと休憩が入ったら困るから・・・。

先ほどの修繕費の関係、これは畳替えが36万2000円ですので、あと、一般修繕が313万8000円ありますけれども、これは畳替えが一番費用がかかって、あとはちまちました修繕費ということではよろしいのか。最初それからお願いします。

○企画観光課長（山本 公君） 畳替えが36万円、これは公社の方の修繕費の関係かと思うんですけども、350万円。畳替えの関係が36万円余り、あとは、椅子のメンテナンスの関係が30万円とか、あとは、一般修繕ということで、Q I C設備ですとか、機械関係、その都度出た時に修繕をしていくということでございまして、すべてがすべて何に充てると決まっているわけではない部分もございますので、使わないことも当然あり得るということです。

○1番（藤井 要君） たぶん36万円が一番最高かなと思います。

あと、委託料の関係で、これが635万円ですけども、その中のその他明細が329万で、ビル管理法管理が157万円が一番大きい、その次は148万円、その他は329万円、この中で2つ3つ大きなものがありましたら、明細を。

○企画観光課長（山本 公君） 公社の委託の関係635万4000円ということでございますが、エ

レベーターの関係のものが80万円ですとか、ボイラーが30万円余りですとか、冷却塔が66万円余りですとか、個々に管理委託の積み上げをしてあるところがございます。

振興公社の委託料の中でということによろしいでしょうか。振興公社のものにつきましては、公社の理事会あるいは評議委員会等で議論がされているかと思しますので、町がこと細かに詳細について申し上げるのもいかがかなと思えますけれども、全体的な中で、うちの方は管理料として2億5440万円を出させていただいていると、ただ、内容については、当然うちの方が予算を立てる段階では確認をさせていただいていますので、よろしくお願いをしたいと思えます。

○1番(藤井 要君) いま課長は、これは振興公社の中でということで、修繕費とか委託料があるということは、ほかにあるということか。振興公社以外で、例えば、修理したり、委託なんかをやったりすることがあるということか。

○企画観光課長(山本 公君) 振興公社の中に委託している管理委託費が2億5440万円ありまして、その中を構成する部分の中に修繕費もあり、人件費もあり、何もありませんということですから、その中で出て来る修繕費の内容をいま申し上げたところでございますけれども、その議論については、理事会、評議委員会で振興公社の予算がされているということでございますので、うちの方は予算を作る際に、その内容はどうかということは聞きますけれども、議決については、理事会、評議委員会でやっているというところになります。

○議長(斉藤 重君) 午後1時まで休憩いたします。

(午前11時59分)

---

○議長(斉藤 重君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

(午後 1時00分)

---

○議長(斉藤 重君) 質疑を続けます。

○5番(高柳孝博君) 振興公社の方も支出を減らすように努力をされているようですが、一方で経費節減とともに収入のアップを図らなければいけないわけですが、収入のアップが先ほど、一つは、リピーターの話が出ていました。しかし、リピーターも先ほど率で出てきておりますので、率で出てくると、母数となる部分が、たぶんお客さんが減っているので、例えば、同数であれば、母数が減れば、母数が減れば、率は上がるということになりますので、そのあたりの分析はどうなっているのか。

それと、いろんな施策を、先ほど3つくらい施策、改善策というのが上がってきましたけれ

ど、その改善策ごとに、この改善策でどれくらいお客を呼び込もうとしているのか、そういうことをして、いわゆるPDCAを回すということをやらないと、その施策が本当にきいているのかどうか分からないわけです。

そのあたりは、役場の方ではなかなか見えなくて、それを見ているところはどこか見ているところがあると思うんですが、それが理事会なのかどうか分からないんですが、そういったことをしっかりやらないと、施策そのものいいかわからない。

それと、施策が本当にそこでうまくいってなければ、さらに新しい施策を考えなければいけないわけですが、そのあたりの管理をどのようにやられているんでしょうか。

今後公社の委託の・・・、まつぎ荘の経営の形態も変わってくるということですので、そのあたりはいかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 先ほど、午前中の部分でリピーター率ということでご説明をさせていただきました。2月までの関係で、24年度が46.3、人数でいきますと8188人でございます。1万7700人余りの内の8188人というようなことでございます。前年が42.7ということですので、前年の利用人員にかければ当然わかるわけですがけれども、いずれにしても、去年よりも増えているということになります。

それと、施策でどれだけの人数を増やしていくかという部分ですけれども、こちらの方も振興公社の運営の部分にかかってくるのかなという感じではおりますが、町長が先ほど申しましたような体験型の営業の強化ですとか、あるいは顧客、リピーターを増やすとか、あるいはネット関係、自動車学校の利用ですとか、そういうものを重点的にやっていくということで、公社の方からは、そういう話で聞いているところであります。

それぞれのものが、どれだけの人数かということについては、こちらの方では把握しておりませんし、公社がそれぞれ一つずつ持っているかという確認は取っておりませんので、ちょっとわからない状況です。

○5番（高柳孝博君） データがないということでは、そういう施策がうまくいったかどうか分からないんじゃないかと思うんです。そのあたりは、なんで把握しないんでしょうか。

公社の方でデータがなければ、やはりそのあたり、この施策がいいかどうかというのは、その施策がいいために、例えば、何人増えるとか、何かいろいろ考えないと、その施策だけで今年の目標とする・・・、大人だけで2万1855人ですか、このあたりは本当に達成できるかどうかというのを何で判定するかよく分からないんですけれど、それを見ていかないと、施策そのものいいかどうか分からないのではないかと思うんですが、そのあたりはいかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） リピーター率というのは、当然先ほど言った数字で出ておりますので、それらを増やしていくという、元の数字があるわけですね。これまでの実績を踏まえた数字がありますので、それを当然上回るような活動をしていかなければならないということもありますし、ネットについても23年度のネット利用者が28パーセントあったものが、24年ですと、12月現在ですけれども、32パーセントというようなことになっておりますので、そういったものを基準に増やしていくというようなことも考えられるかと思えます。

それから、自動車学校の利用についても数字は出ておりますし、やらない時より当然増えているわけですので、今年度の利用は、いま2月末で658人あったということで伺っておりますけれども、来年度、25年度につきましては、それ以上を目指していくということでございます。

当然それらを合せた中で、目標とする2万3500人を上回るように努力をしていくということになります。

先ほど町長の方から施設管理係という部分の設置というお話がありましたけれども、それらとも連携をした中で、そういった目標も立てながら、今まである以上のものを目指していくということで考えていきたいと思っています。

○5番（高柳孝博君） 公の企業であれば、ある程度利益というのも無視してやらなければいけないところがあるわけですが、まっさき荘の場合はある程度利益というものを考えなければいけないので、そうすると、どういうところにニーズがあって、どういうところにより資源を使った方がいいかというのを判定しなければいけないわけですね。そういった時に、どの施策が一番効いていて、何が良くて良くなっているのか、何が悪くて入って来ないのかという・・・、もちろん流動人口というのは減っている状態ですので、流動人口が減っている中で、何に重点的に資源を充てていったらいいか、経営資源の充て方、そこに戦略というのがあると思うんですが、そのあたりを考えるために、やはりそのチャンネルというんですかね。どういうチャンネルでどれだけ入ったか、あるいはどういう施策をやって、どれだけ入ったかというのを見ていく必要があると思います。そのあたり・・・、今後・・・、考えはあるのか。データがないということですが、データを作る気があるのか、作らないのか、それだけ教えてください。

○企画観光課長（山本 公君） 新しいものと、なかなか出ないわけですが、既に、先ほど申しました事業展開のものについては、当然数があるわけですので、それは当然それを上回るような動きをしなければならぬということになると思います。

お客様の方のニーズの把握ですとか、「どんなような様子なの」ということについては、またアンケート等も取っておりますし、インターネットの中の評価みたいなものも当然分析ができ

るわけでありませう。

利用形態も割と年齢の高い方の利用というのが多いものですから、そこら辺に向けたいろんな取り組みをしていくということで考えておりますけれども、また、町とも連携した中で、そういったものを進めていくということで、まるっきり数字がないわけではないんですけれども、これまでの数字を踏まえて、それ以上を目指す努力は当然してまいるところでございます。

○町長（齋藤文彦君） 先ほど、私は、営業強化のための4つのことを言ったわけですが、これが、どれが効いてお客さんが増えたとか、なかなか明確にできないわけですが、藤井要議員も言われたとおり、ある程度目に見える形にしていけないと、振興公社はこれからはし続けるにしても、なかなか難しいと思いますので、そういうようなことが皆さんに目に見えるような形で出せるようにすればいいなと思っています。

○10番（鈴木源一郎君） 26ページ、本会計は、まつぎき荘の稼働率、あるいは収支、これももちろん一番問題のわけですが、地元貢献に努めていくということもまた一方では大事だと思うんですが、この26ページあたりにある賃金のことも関係があります。食事材料費とか、酒飲材料費とか、あるいは売店材料費とか、そのほか地元に関わりのあるような、そういうことについての地元からの仕入れとかについては、どのように来年度はやっていこうということでしょうか。

それぞれの割合なども試算があるのではないかと思いますので、それらを含めて説明をいただきたいと思います。

○企画観光課長（山本 公君） この予算の中で、どれくらいになるかということについては、ちょっと、ありますので、24年の状況、1月までの状況で若干お話をさせていただきたいと思っておりますけれども、食事材料につきましては、町内調達で43.5パーセントでございます。飲み物については、79.1パーセント、それから、売店については、外からお菓子とか何かをとっている部分、地元でそういうお菓子なんかができればいいわけですが、なかなかないので、売店材料については、34.0です。備消耗品費でいきますと、45.3パーセントということで、全体でいきますと、食事材料、飲み物、売店、備消耗品等を合せまして、24年度1月末までの実績でいきますと、2400万円ほど町内で調達をしております。

それから、クリーニング代ですとか、そういったもの、あとは燃料関係等々、あるいは町の水道・温泉、あるいは人件費なんかも当然あるわけですが、そういうものを入れていきますと、1億4000万円くらいの調達と人件費なども含めて、そのくらいになるかなと思います。人件費等々も入れまして、大体57～58パーセントということになります。



○10番（鈴木源一郎君） 料理材料とかも、あるいはほかのものもいろいろ仕入れていく、購入していくという上で、非常に隘路もあると思うんですよね。単価が割高になりやすいとか、いろいろな問題、隘路が多いと思いますけれど、一番問題になるのは何でしょうか。

材料がなかなか揃わないというようなこともあったり、いろいろあると思うんですけれど、そこら辺はどんなものですか。

○企画観光課長（山本 公君） 単価の問題とか、地元調達の問題と、そのやり取りがやはり難しいわけでごさいます、安ければすべて外でいいかというような問題も、これまでの議論の中で出てきているのではないかと思います。

ただ、だからといって、そのままの値段で入れるということではなくて、見積り等も微しながら、やはりやっていくというようなことで考えておりますので、そういうやり取りは非常に難しい部分はありますけれども、だからといって、そのままの値段ではない・・・。

いずれにしても、経費節減という部分も考えながら、一方で収入も増やしていかなければならないということがありますので、地元の方にも協力いただける部分は当然協力をしていただくということでは考えております。

○1番（藤井 要君） いま課長の答弁を聞いていた中で、ちょっと聞きたいんですけども、宿泊利用者が2万3500人、これは黒字化のための損益分岐点の人数だということになるわけですが、その中でいろいろ言っていました、自動車関係、何人とかというのはいま頭の中にありませんけれども、そういうのを積み立てていって、この2万3500人を出したのか、それとも、2万3500人を黒字化のためのありきでやっているのか、どちらですか。

もし、例えば、自動車関係を去年より10人増やす予定の計算、そういうので積み立てていって、2万3500人になったのか、そこをお聞きします。要するに明細です。

○企画観光課長（山本 公君） 先ほどの高柳議員からのご質問ともちょっと重複するかなと・・・、ネット利用でどれだけ増やせるか、共済利用でとか、あるいは自動車学校利用でどれだけ増やせるのかというような部分はきっちり出ているわけではないんですけども、ただ、それらの事業というんですか、メニューを積み上げていった中で、2万3500人以上を確保したいと、黒字化になる最低の値ですかね。一番下の数字を確保していきたいというようなことで考えておりますので、そんなことしか答弁できませんけれども、前年以上の取り組みは当然しますということでごさいます。

○1番（藤井 要君） ですから、自動車関係600何人というのがありましたけれども、じゃあ、今年は700人を目標にするんだとか、どこかの共済組合が100人来ているから、今年は200人

だと、そういう積算をしていって、2万3500人にしたかということを知っているわけで、ただ、だから、先ほど差引して2万3500人取れば、1人いくらが7800円だ、いくらだということをやっているのかということを知ったわけで、それは努力をしますということは、明細を積み立てることによって、積算して出てくる数字だから、ただ、「やっています」、「努力します。努力します」、「自動車関係をもっと増やします」、「共済組合をもっと増やします」と、そういうことなんですよ。

ですから、高柳議員もある程度そういうデータ・・・、高柳さんは高柳コンピュータですので、そういうことですよ。もう一度。

○企画観光課長（山本 公君） それぞれの積み上げで、650を1200にするかということの積み上げではできておりませんので、またそこら辺は、町と公社と連携を取った中で、考えていきたいと・・・、いずれにしましても、2万3500人以上を目指さなければならないということはございますので、それ以上を目指して、頑張っていくところでございます。

○1番（藤井 要君） 私も元の職場にいた時に、2～3年ですか、そういう免許を持っていたもので、やった経験もあるわけですよ。やっぱりそういうのをやると、どここのツアーを新しく作ってみたりとか、そうすると、ここに何人という、そういうのを、やっぱり大まかに人数を伸ばすんだという・・・、やっぱり明細というか、細目についてやらなければならないということで、今はやっていないということですから、やった方がいいと思います。

それと、まつぎき荘は温泉も水道もほかのところに比べて大口ですよ。町と交渉して安くしてもらったらどうですか。

○企画観光課長（山本 公君） 温泉も水道もかなり大口であるわけでもございまして、かたや温泉も水道も企業会計の中で経営をしている部分もあります。また、ほかの宿泊施設との関係もありますので、なかなか町だけがそういうわけにはいかないかなと。

企業会計の方も後ほどまた議論があろうかと思うんですけども、そういう部分でなかなか難しいかなというふうには思います。

○町長（齋藤文彦君） 高柳議員また藤井議員みたいに、そういうふうになかなか積み上げていってというのは、目に見えてできればいいわけですけども、なかなかできないところがありますので、そのような、目に見えるような形にしていきたいと思っています。

振興公社は21年度から5年間指定管理者としてやって、今年が5年目で、本当に第3コーナーを曲がって、ゴールへ突入というような形ですので、本当に力をあげて、この目標達成のために、ただ言葉だけでと言いますけれども、行動で示していきたいと思っています。

○7番（関 唯彦君） いま藤井要議員が言われたようなことは、本当に必要なことだと思いますよ。私も言っていること自体はそれに近いし、高柳議員が言っていることもそうだと思うんですよ。

やはり、例えば、自動車学校にしたってそうです。今は何人来ている。じゃあ、何人にするんだという目標が決まれば、じゃあ、どこどこが、どういう営業をしていかなければいけないということも決まってくるわけですよ。だから、そういう積み上げというのは必要だと思いますよ。そういう積み上げがないと、そのものに対して、そういうふうに営業したり、どういうふうに活動していくというものが出てこないんですよ。だから、それを皆さんが言っているんだと思うんですよ。議員が。

だから、そういう積み上げをして、出してくるということが非常に重要だと思います。ですから、もう一度そういうところを積み上げることによって、どういう所に営業に行かなければならないか、どうしなければいけないというのが出てきますので、その辺をもう少し考えてやっていただきたいと思いますけれど、どうでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 町長の方も見える形でやっていきたいということで答弁させていただいていますので、公社と相談した中で、数値目標みたいなものもできるだけ出るものは出していく方向で検討していきたいと思います。

○3番（佐藤作行君） ちょっと1～2点お伺いします。

26 ページのさっきお話のあった風呂の上がり湯の重油ですか、869万7000円、毎月72万ほどかかっています。

これは可能かどうか、採算が合うかどうかもちっとわからないんですが、温泉がだいぶ余っているということで、熱交換機か何か、新たな温水システムを導入するというような検討ですね。あるいはもう一つ、去年私は飛騨の高山へちょっと行って来まして、飛騨高山のグリーンホテルという所に泊りまして、そこが木質ペレットの温水システムをやっていたわけですよ。それで、岐阜県がいろいろお金を出して、間伐材なんかをその木質ペレットにして、それを燃料にして、ボイラーで使っているという話でした。

それで、油関係は毎年値段が上がっていると、だけど、木質ペレットはずっと同じ値段で推移しているということで、去年の段階で、大体燃料費としては、重油を使っていた時よりも2割方くらい安かったというような話も聞いているわけですが、ちょっとそこらも検討してみたらどうでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 先ほどの重油の問題とか、水道の問題、温泉の関係等ございま

す。そのペレットの関係につきましても、過去にもそういった議論もあったわけでございますが、現時点で比較しますとやっぱりペレットの方が少し高いかなという状況でございますが、今後温水システム、ペレットの関係とか、検討できるものは検討して、施設にとってそれがより経済的に軽まるのであれば、そういう方向性も考えられるかなということですので、また研究をさせていただきたいと思います。

○議長（斉藤 重君） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（斉藤 重君） 質疑がないようでございますので、質疑を終結したいと思います、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（斉藤 重君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

（発言する者なし）

○議長（斉藤 重君） 反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

（発言する者なし）

○議長（斉藤 重君） 賛成討論なしと認めます。

これをもって討論を終了します。

これより議案第 34 号 平成 25 年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計予算についての件を挙手により採決いたします。

（挙手全員）

○議長（斉藤 重君） 挙手全員であります。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

---